

福島県立葵高等学校

進路だより

2020年7月31日(金)発行

第4号

3年生の夏休みにすべきこと!

1 基礎基本の定着

3年の夏休みまでに基礎基本の定着を図るべく、自分自身で取り組む学習計画を立てよう。9月からの授業や補習では、より実践的な問題演習が行われる。その演習をこなすのに見合うだけの土台ができていなければ、秋以降の取り組みは意味をなさなくなってしまう。教科書を用いた復習や、定期考査や模試(6月進研マーク、7月進研記述、8月全統マーク)の見直しを通して、基礎基本の定着を実践しよう。模擬試験は、幅広い範囲から各単元の重要事項が出題されている。つまり、模試でつまづいたところは自分の弱点であり補強すべきところである。正解したところも含めて解答解説の冊子を熟読し、基礎基本を定着させる、あるいは、より強固なものにしよう。

2 志望校の具体化

将来何をしたいのかを踏まえて、第1志望校を自分の心の中でぶれないようにしよう。6月マークの判定がEであっても、この時期に考え直す必要はない。逆に、自分自身のモチベーションのアップにつなげるべく、第1志望は貫き通す方が良い(共通テストを受験し終えるまでは)。ただし、第1志望に合格するための努力をやり続けること。口だけで実行が伴わない者は誰からも応援されなくなる。第1志望に向けて努力を積み重ねる覚悟を決めよう。

第1志望を曲げずに頑張り通す分、国公立ならば中期や後期の出願校を、私立ならより確実に合格できる出願先の候補を考えよう。そのためには、試験科目や試験日を確認しなければならない。それは各大学が発表している『2021募集要項』で確認することが必要である。各大学のホームページからダウンロードしたり、冊子を取り寄せたりして、出願パターンを考えよう。

出願を検討する大学の最近1、2年分の入試問題を解いておくことも、この夏休みにしておきたいことである。具体的な出題形式、分量、試験時間、難易度などを赤本で確認しよう。本番の入試までに到達しなければならないレベルと現在の自分の学力レベルの差を把握しておくためである。その『差』を埋めることを意識して秋以降勉強していくのだ。第2職員室には過去3年分の赤本がある。気軽に足を運んで赤本を手にとってみよう。

『夏を制する者は受験を制す』とは、古くから言われている。その夏休みが始まる。例年なら基礎基本を固めるためにじっくり時間をかけることができるが、今年は短い。それでもやれることはあるはずだ。1、2年生も焦点を絞って欲張らずに学習計画を立てて実行しよう!

1 生活のリズムを作る

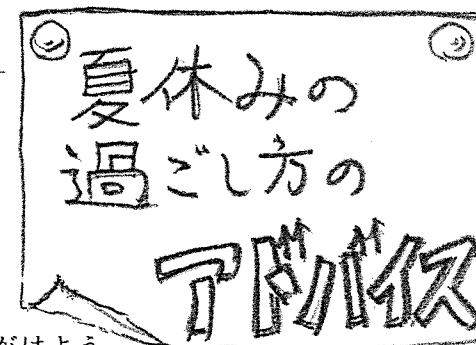
起床時刻、午前の勉強を始める時刻、午後の勉強を始める時刻、夜の勉強を始める時刻、就寝時刻を固定するように生活しよう。登校するときと同じリズムが一番良い。夜は早めに寝て、いつも通り起きる生活を心がけよう。

2 予備日(週1)を設ける

計画通りに進めることは厳しい。予定より遅れても予備日があればある程度修復できる。日曜日は予備日として空けておくなど、余裕がある計画を立てよう。

3 適度な運動をする

ちょっとした時間に簡単な運動をしてメリハリのある生活にしよう。気分転換にもなり、血流も良くなるはず。ただし、息抜きにのめりこまないように。



3 第1志望校の選抜方法の具体化

多様化が進む大学入試において、どの選抜方法で受験するのか、第1志望校については具体的に考えよう。総合型選抜(旧AO入試)は全大学の76.7%で行われ、総合型による入学者数は全入学者数の9.9%である。一方学校推薦型選抜(旧推薦入試)は全大学の99.1%で行われ、推薦型による入学者数は全入学者数の36.8%を占める。総合型や推薦型の定員が増えつつある今、昔のように、とにかく一般試験で合格できるように勉強する、というよりは、総合型選抜や学校推薦型選抜も選択肢の一つとして調べてみよう。ただし、あくまでも選択肢の一つである。

① 第1志望校に出願することが原則である。

② 大学入学共通テストや学力を問う試験を課す大学が増えている。

一般選抜を前提にした学習もおろそかにしないで取り組む。

③ 大学の『アドミッションポリシー』をしっかりと把握する。それに見合う学生が求められている。

④ 受験する際には、それ相応の準備が必要である。また、不合格の時のリスクは結構大きい。担任と面談の上、総合型選抜や学校推薦型選抜への出願をするか否かを判断すること。

夏休みから2学期始めの予定

8月2日 小論文講習会(3年)

3日~7日 強化学習会(3年)

7日、8日 全統共通テスト模試(3年)

17日~22日 夏季補習(全学年)

★三者面談、保護者面談

8月25日 2学期始業式

26日~28日 特別考査(全学年)

ただし、1年生は26、27日

9月5日 全統記述模試(2年希望者)

特別補習(3年)

52点差の名勝負

(さだまさしファンクラブ会報誌「まさしんぐWORLD」1987年9月号より)

僕の前に、一枚のスコア・カードがある。
今夏の甲子園大会地区予選の行われた中で、
僕にとって最も印象に残ったゲームのスコア
カードのコピーである。

このゲームは、昭和62年7月1日に岩手県学
球場で行われた。

翌朝の各紙朝刊では、ほんの数行触れられ
ただけの、単なる地区予選の一カードである。
新聞の中にはこのカードのスコアボードの写
真を載せたものがあつたが、それは、この試
合が53対1という大差のコールドゲームであ
った珍しさからであろう。

実は、僕が興味を持ったのは、53点の方で
はなしに、1点の方だった。そこで7月下旬、
岩手へ行った際、無理を言って、この試合の
スコアのコピーを手に入れてきたという訳だ。

さて、その試合は、盛岡商業と岩手橋高校
との間で行われた地区予選の一回戦だった。

一回表、古豪盛岡商業は、橋高校のエース
藤原を攻め、9安打、7四球、7盗塁、更に
8つの敵失がからみ、25人の打者を送って、
21点を奪った。

その裏、橋高校は、太田、水谷、高橋と三
者連続三振を喫して、21-0。

二回表、盛岡商業は2安打と1敵失で2点。
橋は2安打を放つが無得点。23-0。

三回表、6安打2四球5敵失で、15人の打
者を送って11点。その裏、橋は三者凡退で
34-0。

つまりこの試合は、圧倒的に優勢なもの
と極めて力の弱いものとの、試合とは呼べぬ試
合の形だった。

どう考えても、三回を終わって34-0の試
合がひっくり返る訳はない。ひっくり返すに
はそれだけの力が必要で、もしその力を持っ
ておれば、この大差は生まれて来ない。

戦いというのはそういうものだ。

四回表、盛岡商業も手抜きをしない。橋は投
手藤原一人で投げ続けていたが、それを攻め
3安打2敵失で3点を奪って37-0。

そしてその裏、大波乱が起きる。

1アウト後、橋の投手藤原が、盛岡商業の
この試合でたったひとつのエラーで出塁する。
この藤原を一塁において、5番セカンドの、
下村(幸)が右中間に三塁打を放ったのだ。

このタイムリーで、岩手橋高校は、完封負
けをまぬがれた。

僕がこだわった一点である。

試合はその後、五回表に、盛岡商業が13安打
6盗塁に3つのエラーで16点を加え、結局
53対1という大差でコールドゲームが成立し
てしまうのである。

さて、この試合を振り返ってみよう。

まず、次に記す得点表を見てもらう。

	1	2	3	4	5	
盛岡商	21	2	11	3	16	53
岩手橋	0	0	0	1	0	1
盛岡商	安打33	盗塁20	四死球12	敵失19		
	三振2	犠打1				
岩手橋	安打3	盗塁0	四死球1	敵失1		
	三振7	犠打0				

おそらく、橋高校ナインは、ハナから勝て
ると思ってもらえなかったであろうし、盛岡商
も、毛ほども負けるとは思っていなかったであ
ろう。この地区予選一回戦のこの試合。

だが僕には極めて印象的なゲームになった。

それはつまり、四回裏に、橋高校が挙げた
あのたった一点にある。

37対0とリードされたあの時点で、一体人
間というものは、何のために頑張るのであ
うか。人間には、本当に37対0と大差の開い
た時点でも、どうにかしようという強い力が
残っているのだろうか。

そんなものの、ある解答が、岩手橋の挙げ
た点なのだ。

僕にとって、この岩手橋の一点は千金の重
みを持って心に残るだろう。

僕がピンチに立たされた時、人生の岐路に
苦しんだ時、きっと思い出さるだろう。

高校野球の、素顔は、もしかしたら、こん
な所にあるのかもしれない、とすら思うのだ。

橋高校が善戦した、と言ったら、みんな、
笑うだろうか。

夏の風物詩の一つ、高校
野球。甲子園へつながる
地区予選の代替大会が
各地で行われている。左に
載せた試合は33年前の
岩手県大会の一試合である。

4回表を終わって0-37。
そんな中、藤原君はどんな
気持ちでバッターボックスに
入ったのだろう。

それまで藤原君は一人で
投げ続けていた。しかも
相手チームの打者はのべ50人
を超えている。かなり疲れても
いただろう。それでも、
相手のエラーで出塁した後、
下村君の3塁打で一塁から
一気にホームベースを駆け
抜けた。値千金の
1点である。

努力してもなかなか報わ
れずに辛い日々を過ごす
経験は誰にでもある。
そんな苦しい状況下
あるときに、岩手橋の
1点を思い出してがんば
れたら、と思う。